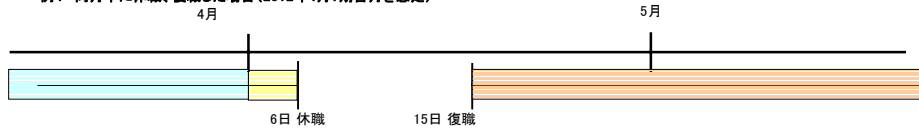


年次付与(日割り 同月中複数イベント)

例1 同月中に休職、復職した場合(2012年4月:期首月を想定)



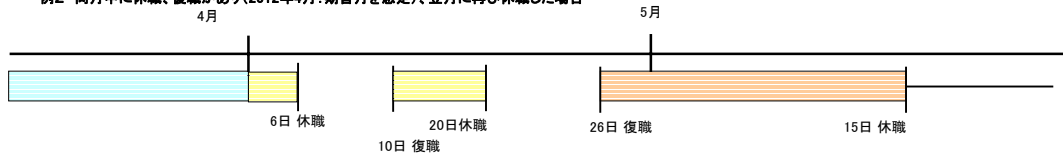
期首月に休職・復職発令

2012年04月 年次確定および休職(2012/04/06)・復職(2012/04/15)の発令あり

処理年月	確定区分	算出値	確定値	予定値	累計値
201104	1	120	120	120	120
201204	0	150	3	143	123

2011年04月のデータはそのまま確定(確定区分=1)。  
2012年04月の算定値をもとに複数のイベントに対して、確定値・予定値を算出。  
2012/04/01~2012/04/05までを勤務日数として計算し、確定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「5」(※簡単のため、小数点以下切り上げ))。  
2012/04/15~2013/03/31を勤務日数として計算し、予定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「351」(※簡単のため、小数点以下切り上げ))

例2 同月中に休職、復職があり(2012年4月:期首月を想定)、翌月に再び休職した場合



期首月に休職・復職発令

2012年04月 年次確定および休職(2012/04/06)・復職(2012/04/10)  
+休職(2012/04/20)・復職(2012/04/26)の発令あり

処理年月	確定区分	算出値	確定値	予定値	累計値
201104	1	120	120	120	120
201204	0	150	8	140	128

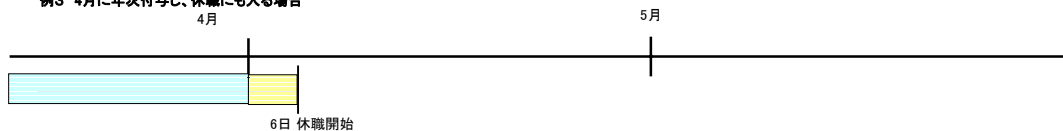
2012年05月 休職(2012/05/15)の発令あり

処理年月	確定区分	算出値	確定値	予定値	累計値
201104	1	120	120	120	120
201204	1	150	9	140	137
201205	0	150	0	0	137

2011年04月のデータはそのまま確定(確定区分=1)。  
2012年04月の算定値をもとに複数のイベントに対して、確定値・予定値を算出。  
2012/04/01~2012/04/05までを勤務日数として計算し、確定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「5」(※簡単のため、小数点以下切り上げ))。  
2012/04/10~2012/04/19までを勤務日数として計算し、確定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「10」(※簡単のため、小数点以下切り上げ))。  
2012/04/26~2013/03/31を勤務日数として計算し、予定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「340」(※簡単のため、小数点以下切り上げ))

2011年04月の付与データを確定データに更新。その際、2012/04/26~2012/05/14までを勤務日数として計算し、確定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「20」(小数点以下切り上げ))。既存データの確定値「8」に今回計算した「9」を上書きします。  
2012/05/15~2013/03/31は休職中なので予定値を「0」とします。

例3 4月に年次付与し、休職にも入る場合



期首日に休職・復職発令

2012年04月 年次確定および休職(2012/04/06)の発令あり

処理年月	確定区分	算出値	確定値	予定値	累計値
201104	1	120	120	120	120
201204	0	150	3	0	123

2011年04月のデータはそのまま確定(確定区分=1)。  
2012年04月の算定値をもとに複数のイベントに対して、確定値・予定値を算出。  
2012/04/01~2012/04/05までを勤務日数として計算し、確定値とする(算定値「150」÷暦日数「365」×勤務日数「5」(※簡単のため、小数点以下切り上げ))。  
2012/04/26~は休職中なので、予定値は「0」とする(休職中付与が「1:付与しない」の場合)

※実際の計算では、小数第5位まで保持します。